

特定非営利活動法人ブッダ基金

第17期（平成29年8月1日から平成30年7月31日まで）の事業報告書（案）

第17期事業内容と成果		
海外派遣事業	1) 第31次ネパール派遣団 定款事業①②③⑤⑥	<ul style="list-style-type: none"> ・期間 2017年8月25日～9月5日 ・参加人数:2名 加藤義一 理事長、山影敏康（事務局）、 <活動内容> <ul style="list-style-type: none"> ・BCML 移転後の開所式に出席 ・バガワティ小学校 日本昔話アニメ上映、日本紹介動画 ・ルムレ ギャノダヤ学校 学校建物、設備の整備状況確認と日本昔話アニメ上映、日本紹介動画 ・Reading Camp 生徒の音読活動を視察、図書を持参して小学校を訪問し読み聞かせを実施。 ・Heralo Academy との会合 新代表ジャン氏、ロッシュ氏と面会し、今後も協力関係を継続することを確認。ヘラロからバガワティ小学校へ建設資金の支払いが滞っていたが、支払われたことを確認。 ・取引銀行の変更 Civil Bank => Gandaki Bikas Bank（開発銀行）へ。
	2) 第32次ネパール派遣団 定款事業①②③⑤⑥	<ul style="list-style-type: none"> ・期間 2018年4月28日～5月6日 ・参加人数 1名 加藤義一理事長 <活動内容> <ul style="list-style-type: none"> ・Investment Bank 訪問 定期預金契約 ・HBF と BCML 職員給与改定、来期事業について会議 ・ヘラロアカデミー 訪問 奨学金事業費 NRs. 100 万支払い。スポーツ普及事業（運動会）について相談。 ・バガワティ小学校訪問 今期コーヒーの実収穫量 913kg、最終的に焙煎後は 82kg の豆になった。 校庭の土砂が崩れ、補強が必要との報告を受ける。費用は5百万円。半額は政府、250万円はその他複数団体、ブッダ基金は百万円拠出（予定）。来期 Ready for（クラウドファンディング）で50万円の資金調達を計画中。 ・BCML 訪問 移転後の図書館の視察、移転費用の詳細の報告を受ける。来期事業提案書の受領。

<p style="text-align: center;">教 育 支 援 事 業</p>	<p>1) こども移動図書館プロジェクト (BCML)</p> <p style="text-align: right;">定款事業⑤</p>	<p>第 12 期から、ネパールの山間部に位置する村や学校に本を届ける（貸し出す）プロジェクトを実施。ポカラのレイクサイドに建設した図書館を拠点とし、日本から送った移動図書館車「にいみ号」により山間部の学校に本を届ける。2017 年 6 月～7 月に図書館を移転した。従来の蔵書パックを学校に届ける活動は参加各校年間 5 回、1 回あたりの貸し出し期間は 2 か月とし、継続実施。2017 年 12 月末から” Reading Camp” を通常プログラムとして開始。以前は職員が選んだ蔵書パックを各学校に届けるだけだったが、にいみ号（移動図書自動車）に 500～800 冊の蔵書を積載し、2 時間学校に滞在。2 か月貸し出しのみに比べ、生徒は読みたい本を次々に選ぶことができ、生徒や教員から好評。</p> <p><活動実績></p> <p>第 17 期：訪問学校数 57 校（2017/08-2018/07）、6000 人</p> <p>※ 2016 年 10 月より、訪問地域を厳選し、訪問した学校で英語、作文、算数、社会、保健の授業を時々実施。図書館長イソワリ氏により様々なプログラムの提案がなされ、充実した活動ができている。</p> <p><図書館情報></p> <p>第 17 期：蔵書数 約 23,000 冊</p> <p>年間約 700 冊が破損、紛失されたが、約 21,000Rs の補償を受けた。</p> <p><活動内容></p> <p>2017 年 8 月 BCML 移転後の開所式に出席 バガワティ学校にてアニメ上映、日本紹介動画。 Reading Camp 生徒の音読活動を視察、図書を持参して小学校を訪問し読み聞かせを実施。</p> <p style="text-align: center;">※ 第 31 次派遣団と共に。</p> <p>来期継続事業</p>
	<p>2) サクラリグランス事業（女性の地位向上支援）</p> <p style="text-align: right;">定款事業③</p>	<p>ネパールの山間地の子女たちは、就学率が低く、児童労働や女性差別など非常に困難な状況にある。こうした恵まれない子女を教育し、更に手工芸の技術を身につけて自立出来るようにするための事業として、サクラリグランス事業を実施。</p> <p><17 期の訓練状況と修了生のその後></p> <p>図書館移転に伴い洋裁師養成訓練事業を終了。5 年間で修了生は 50 人。うち十数名が洋裁師として生計を立てている。経営者は 2 人、工房運営が 3 人、ブティックに雇用されている修了生は 6 人、日本研修中に逃亡した者 2 名。</p>

<p style="text-align: center;">教 育 支 援 事 業</p>	<p>2) サクラリ グランズ事業 (女性の地位 向上支援)</p> <p>定款事業③</p>	<p><特別活動></p> <p>2017年8月 サクラリグランズ講師の日本招聘 2名の講師を招聘したが、研修中に講師2名が逃亡 する事態となり、店舗は閉店を余儀なくされた。独 自で搜索活動を実施したが未だ所在不明。 入国管理局には状況を報告済。</p> <p>2018年2月 店舗の運営権を売却するために、現地担当者サンギ タさんが奔走。継承者が見つかりすべてを売却。</p> <p>以上のようなことから、本事業は今期で終了し来期第33次海外 派遣団で事業清算を執行する。2名の研修生により最後は残念な終 わり方になってしまったが、山口祐子前理事、サンギタさん、平野 先生の献身的な事業運営により50名の修了生を出し、その中から 洋裁師、店舗経営者、工房運営者、ブティックスタッフを誕生させ た貢献に敬意を表したい。私たちが理解すべきは、依然多くの ネパール人は厳しい環境下で暮らし、特にローカースト子女は ネパールでは将来に希望を持ちにくい現実がある。今回起きた事態 に怯む事なく今後もネパールの最も支援を必要とする人々に手を 差しのべたい。</p>
	<p>3) バガワテ ィ小学校 コーヒー園</p> <p>定款事業⑥</p>	<p>2009年1月にバガワティ小学校の運営費捻出のためにコーヒー の木を1400本植樹し始まったプロジェクト。NGOヘラロアカデミ ーと協力し、学校の裏庭にコーヒー園を造成。その後溜池増設工 事、学校校舎裏の木の伐採工事(日照確保のため)などコーヒー 園の環境改善に取り組んできた。「品質の維持」、「収穫量の向 上」、「学校の運営費捻出」が9年経った今なお課題である。</p> <p>2015年末に支援終了の予定であったが、2018年まで延長を決定 し、今年の12月で支援終了。</p> <p><最近の実績></p> <p>2017年2月～4月：収穫量 85kg (生豆) 雹の影響で収穫激減</p> <p>2018年4月まで：収穫量 913kg (実) =>82kg(コーヒー豆)</p> <p><活動内容></p> <p>2017年度の課題であった「品質維持」、「収穫量の向上」、 「収益力強化」が依然として継続的な課題である。現在はまだ収 入よりも支出が上回っている。支援終了後どのように維持してい くのか現地に委ねられている。</p> <p>2018年12月事業終了</p>

教 育 支 援 事 業	<p>4) バガワティ小学校支援</p> <p>定款事業⑥</p>	<p>バガワティ小学校の生徒数増加のため、老朽化の激しい校舎を立て替えるプロジェクトは2014年8月に着工し、2015年5月に完成。ネパール大地震発生により延期されていた落成式を2015年9月、第26次ネパール派遣団が出席する中で実施し当基金としての事業は終了した。</p> <p>その後、2016年9月には生徒数114名、教員数（地域支援教諭含む）11名のネパール政府が認可する学校に成長し、校舎は（他の団体からの支援もあり）1部3階建てとなった。また、PCが10台、レーザープリンターが1台設置され、教育環境が整いつつある。</p> <p><奨学基金の設立></p> <p>山口副理事長からの資金提供により、「奨学基金」を設立した。男女の成績優秀者や、品行方正な生徒に奨学金を授与した。今期で当基金のプロジェクトとしては終了するが、基金の運用益を原資とし、今後は学校側で永続可能な基金とする方針。</p> <p><校庭周辺の土砂崩れへの一部工事費用助成></p> <p>第32次派遣団で学校を訪問した際、校庭周辺の土砂崩れがひどく、学校側から支援の要請があった。工事費は全額約NRs500万との事。半額は政府からの援助金でまかない、残り半分は学校と関りがある多数団体の支援を仰ぐ。当基金はNRs100万を支援（予定）。</p>
	<p>5)ヘラロ奨学金事業</p> <p>定款事業⑥</p>	<p>2016年のネパール地震により、被災した子どもの教育支援として2018年4月に本事業運営資金としてブダ基金からNRs.100万をヘラロ・アカデミーに供与した。2018年5月から2019年4月まで本資金を運用し、年利12%で得られた利息を奨学金として事業を実施する。そのため、PJが実際開始するのは2019年5月以降。今後1年間はPJ準備期間とし、この間に事業の詳細内容を決定する。</p>